

(2022年4月24日)

## 第38回 赤松小三郎研究会のご報告

日時： 2022. 4. 9 (土) 13:30～16:30

場所： 文京シビックセンター 4階 B会議室

出席者： 15名 (初参加2名)

～昨年10月開催以来6か月ぶりの例会 (昨年12月は講演会、今年2月はコロナ禍の影響で延期)～

### < 配布資料 >

- 資料-1 「田原記聞」の四〇三条を分類・分析  
補足；八木剛助の埋もれた偉業を二件紹介する
- 資料-2 西郷隆盛 (明治政府) は、新国家経営の青写真 (設計図) をもっていなかった
- 資料-3 第8回赤松小三郎講演会のご報告 (荻原作成) & 赤松小三郎と勝海舟 (安藤優一郎氏作成の講演会資料)

### < 内容 >

#### I 【「田原記聞」の四〇三条を分類・分析

#### 補足；八木剛助の埋もれた偉業を二件紹介する】

発表者：石川浩氏

##### 1. はじめに：八木剛助と「田原記聞」について

- ・天保年間 (1840年代) 信州上田藩士、砲術家の八木剛助は「田原記聞」を完成させた。
- ・八木剛助は、三河田原藩の砲術家、村上定平 (範致) から高島流砲術を学んだ。
- ・「田原記聞」では、三河田原藩で村上定平から学んだ、砲術や世界情勢・火薬調合・鑄造技術・馬術などを多岐にわたり日乗で記録した。
- ・32丁 (丁とは紙1枚の単位) で記録され、受講内容は箇条書きにされており、岩崎鐵志論文では403箇条 (370箇条とも言われている) ある。

##### 2. 「田原記聞」の分析

- ・岩崎鐵志氏によると、『「田原記聞」の内容は多岐にわたり、日乗 (毎日の記録) にしたがって記されたものとみえ、話題によって整理され、記録になっていない。しかし、重複した記事はほとんどない。ナポレオン戦争によるオランダの記事等がある』とあり、『東アジアの科学 (吉田忠編)』第三章の「高島流砲術伝播の研究－三河田原藩士村上定平を中心に－」論文で「田原記聞」の内容を分類し摘記している。
- ・今回は、それを更に分析して項目毎に分類した。結果は以下のとおり。

内容	件数	割合
A 砲術に関する事項	74	18%
B 日本および世界の出来事	97	24%
C 馬の餌や馬具に関する記述	16	4%
D オランダ語を日本語読みにしたもの	85	21%
E 内容が良く判らない記述	123	31%
F その他、区分に該当しない記述	8	2%
(合計	403)	

この結果、E 内容が良く判らない記述 の分析を更に行う必要はあるものの、

① 砲術関連を中心として内容が多岐にわたること

② 村上範致の「銃陣初学鈔」の内容のみを記述した史料ではないことは明白であること

と  
がわかる。

### 補足：一八木剛助の埋もれた偉業を紹介－「兵学筌蹄」と「兵学発蒙」

いずれにしても八木剛助直筆の前記「田原記聞」は砲術の貴重な資料であることに違いはないが、八木はこの他に、兵学研究をまとめた二つの兵学書を著述している。

#### (1) 「兵学筌蹄」

筌蹄とは、「目的を達成するための考案」という意味で、安政 5 年（1858 年）頃までに書き上げたと言われる。6 冊で構成。その内容は、西洋式陸軍創設の熱意に燃える画期的な著述で、軍事訓練には不可欠な教材でもあったとも言われている。第二次長州征伐において上田藩の統括参謀であった八木は、「兵学筌蹄」に準じて上田藩の軍体制を実行したことが想像できる。

#### (2) 「兵学発蒙」

こちらは 1 冊で構成。「田原記聞」「兵学筌蹄」と一緒に原本が上田市立博物館に保管されている。

詳しい内容の調査はこれからにて、今後詳細が判明したら報告予定。

## Ⅱ【西郷隆盛（明治政府）は、新国家経営の青写真（設計図）を持っていなかった】

発表者：沓掛忠氏

### 1. 紀州和歌山藩の幕末の藩政大改革が明治新政府の改革・施策に大きな影響を与えた

- ・和歌山藩は徳川御三家の一つ、藩主は徳川茂承。
- ・実際の改革者は、当時 35 歳の藩士津田 出、および和歌山藩士→土佐藩士となり当時新政府の実力者となっていて、津田を全面的に支えた陸奥宗光（岩倉具視の信頼が厚い人物）等。
- ・当時の和歌山藩をめぐる状況

徳川御三家の一つである和歌山藩は幕末に比較的遅く討幕軍に恭順した。また、鳥羽・伏見の戦いで新政府軍に敗れた幕府軍が紀州藩領内に逃げ込んで江戸方面へ脱出したのを黙認した（一説によると船を用意して助けた）とも言われる。これが「反逆行為」とみなされて、討幕軍が朝廷軍として成立したとき、新政府から莫大な軍資金献納を命じられた。（現在で約 50 億円程度）これに対し、陸奥宗光が岩倉具視を通じて新政府を説得して軍資金献納は取り消された。

### 2. 具体的な和歌山藩の改革

#### (1) 財政改革

全ての帳簿を開示し、藩主茂承の生活費を 1/20 に減額、藩内も原則「減給 1/20」一方で、無役藩士の最低生活水準は保証した。

(2) 藩内の無役藩士が、今後自分の将来「農業・商業・工業などの職業」を選ぶ道を認

めた。⇒日本国内で初の最新の武士のスタイルであった。同時に、今後「藩の解体化」に向けて進んでいくことの方角性を示していた。

- (3) 「郡県制」「三権分立」の確立
- (4) 「徴兵制」の確立（プロイセンを参考に）
- (5) 「陸海軍の設立」
- (6) 「殖産興業」の推進
- (7) 「貿易の推進」

### 3. 和歌山藩の徴兵制度

- ・士分だけでなく、一般庶民の中から選抜、徴集して編成。（⇔新政府は、士分からの採用は禁止だったため、当初は和歌山藩だけが特例公認、後に明治6年の徴兵制（四民の別にかかわらない徴兵制）の施行につながった。）

### 4. 新政府は新国家経営の青写真を持っていなかった

岩倉海外視察団と明治留守政府の12か条の盟約状（約束事）

- ・政府高官に欠員が生じてもその補充人事をしない
- ・重要な政府の決定をしない
- ・重要な事項は、視察団と相談をする、等々

しかし、西郷隆盛ら留守政府は、和歌山藩で津田を中心にやり遂げた藩政改革の実績を検証・確認した結果、このことは明治政府でも十分できるはずであり、かつ必要なこととして、早急に実施する必要性にかられ、海外視察団の帰国を待たずに次の改革を思い切って実施したと推測される。

徴兵令、学制改革、地租改正、太陽暦の採用、等

明治新政府（西郷たち留守政府高官）にとって最悪を想定した混乱が避けられた理由の一つに、御親兵として備えた常備軍約12,000名の存在があった。（士分を含めた徴兵制の採用）

## Ⅲ【第8回赤松小三郎講演会の報告】

報告者：荻原貴

昨年12月12日（土）に日比谷図書文化館コンベンションホールで開催された赤松小三郎会講演会（演題：赤松小三郎と勝海舟、講師：安藤優一郎氏）についての報告があった。

報告は、「第8回赤松小三郎講演会のご報告」（講演会後に作成）および「赤松小三郎と勝海舟」（安藤優一郎氏作成、講演会の資料）に基づいて約10分間行われた。

（両資料、および講演会当日の写真などは、上田高校関東同窓会のホームページ・赤松小三郎研究会のコーナーにアップされているので、是非ご覧ください。）

（記録：荻原貴）